

9月市議会

根本みはる市議の質問 深刻な猛暑から命を守るためのエアコン補助

深刻な猛暑の中、熱中症による全国における年間の救急搬送者数は高止まりの状況です。総務省消防庁は7月25日、7月に熱中症で救急搬送された人数が4万1174人だったと発表しました。2008年の調査開始以来、7月としては2018年の5万4202人、2024年の4万3195人に次ぎ、3番目の多さとなりました。全体に対して高い割合で、屋内で熱中症に罹患していることから、エアコンを適切に使用することが有効な熱中症対策として、呼び掛けられています。

熱中症による救急搬送状況

熱中症による65歳以上の住宅からの搬送人数は96人。エアコンの設置が未確認は47人



令和8年5月から8月までの熱中症による65歳以上の搬送人数は180人。そのうち住宅からの搬送人数は96人。そのうち、エアコンの設置が確認できたのは49人で、設置が確認できなかったのは47人。

熱中症対策と

エアコンの設置補助

Q 国が示す高齢者のための熱中症対策は？

A 国は、高齢者のための熱中症対策として、高齢者は体内の水分が不足しやすいことに加え、暑さに対する感覚機能や調節機能が低下していることから、水分補給と暑さを避けることに特に注意する必要があるとしている。

また、室内や夜間でも熱中症が多く発生していることから、屋内でも温度や暑さ指数の確認、エアコン使用による適切な室温管理、こまめな水分補給などについて呼びかけている。

Q 熱中症対策及び熱中症警戒情報の市民への伝達方法と課題は？

A 「熱中症予防に関する情報は、市公式SNSによる「熱中症警戒アラート」の配信を始めて、市内のデジタルサイネージや市政番組「とよたNOW」、市ホームページなど、各種の媒体を活用して広く発信している。課題としては、これらの情報を一人でも多くの市民に届けられるよう、様々な方法や工夫を積み重ねていくことであると

認識している。」

個別訪問や相談の機会を

通じて、高齢者に対し注意喚起・訪問介護で体調変化生活状況把握

Q 熱中症リスクの高い高齢者・低所得世帯への熱中症対策及び熱中症警戒情報の周知は？

A 「6月頃から、地域包括支援センターや民生委員が、個別訪問や相談の機会を通じて、高齢者に対し熱中症警戒情報を始めとした熱中症予防の注意喚起を行っている。

また、低所得世帯に、社会福祉協議会による訪問活動や相談支援の機会を通じて、熱中症予防に関する助言や注意喚起を行っている。

さらに、市が実施する配食サービスでの見守りや、ケアマネジャー、訪問介護事業者など関係機関の日常的な支援を通じて、体調の変化や生活状況の把握に努めている」

Q 高齢者・低所得世帯に対するエアコンの設置補助の考え

A エアコン設置への個別補助制度については、対象者の範囲や支援内容の設定、公平性の確保などの課題があることから、慎重に検討すべきものと考えている。

一方で、市としては、熱中症対策の重要性は十分認識しており、引き続き熱中症予防の啓発や見守り活動、クーリングシエルトの利用促進に取り組むとともに、低所得世帯に対しては社会福祉協議会の無利子又は低利の貸付制度の周知など、既存施策の活用を図っていく。

なお、猛暑の状況や物価高など生活環境の変化、国等の動向などには、今後も注視していく。

根本みはる市議

「物価高騰は止まることはありません。暮らしはすでに限界ではないかと思っています。エアコンが使えないために、熱中症により健康を害する、また、命を落とすことがないよう、エアコン設置補助、早急な対策を求めます。」

投稿

豊田市の地形・地質と防災（下）

建築士 本多弘司（投稿）

矢作川の誕生と河岸段丘

朝日丘中の研究ノートによれば、矢作川約100万年前に逆断層によってできた。その歴史的形成も興味深い。5つの河岸段丘があり、川を中心に沖積面、越戸面、拳母面で拳母面が高い。朝中は拳母面で童子山小は越戸面であり、間に段丘崖がある。

豊田市の洪水ハザードマップでは、市役所は水没し機能を果たせなくなる。その場合、



東海豪雨での市街地 市 HP

臨時に対策本部を博物館に置くそうであるが、機能するであろうか？南庁舎は免振構造となっていて、防災対策課は4階にある。また、洪水などで堤防が決壊すれば、中心市街地は甚大な被害をうける。

特に、市役所、参合館、コモスクエア、KITARA（キタラ）などの地下駐は危険である。

鵜の首拡幅と安永川トンネル拡幅

東海豪雨では矢作川の越流で堤防の決壊も心配された。秋葉町地先で鵜の首のように狭くなっているからである。

その拡幅と掘削工事が進められ、水位低下が期待される。

中心市街地は矢作川の堆積で河床が堤内地と同じ高さに近く天井川化している。洪水で拳母城は桜町での建築を諦め1785年に移転した。その前から「町は洪水の避難地として始まっていた」（小滝省

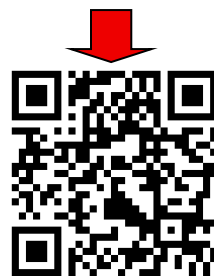
市「城下町の高台移転」。鵜の首拡幅など進んでいるが、長期的には市役所の高台移転が望まれる。豊田市洪水ハザードマップでは、中心市街地で深い所は10mを超える。

もう一つの不安は天井川化し、市街地の水はけが悪い。

主に安永川と長田川が市街地の雨水排水を担う。中部ポンプ場が機能せず市街地が内水氾濫したことがあり、現在機能の強化工事が行われている。安永川トンネルの拡幅（秋葉から水源の明治用水下まで）が行われた。今後は長田川の上流整備が予定されている。

写真は2000年の東海豪雨時の浸水状況である。下流に鵜の首があり、拡幅の工事中であり、完成には10年がかかる。市街地の洪水の危険には、他に上流のダムの放流もある。もちろん降雨量が一番影響する。命を守るために自分の家がどこにあるか、いつの段階でどこに避難するか、常日頃、家族でマイ・タイムラインを相談しておくことが大事である。

「豊田民報」の記事はこちらからもご覧いただけます。



原発ゼロ

9月11日（金）午後6時

スタンディング

ご参加を

場所：豊田市駅西側デッキ

主催：さよなら原発豊田市民行動連絡会

あの日から
15年6か月目
福島を忘れないNO
NUKES

もう原発はいらない

- ◆法律相談は弁護士が
9月は13日 午前10時～12時で
- ◆生活相談は随時、根本議員が応対
- ◆法律相談は要予約。お申し込みは
日本共産党西三地区委員会まで
電話 0564-23-2785
- ◆生活相談は根本議員まで
電話 0565-34-4772

無料

法律・生活相談
おこなっています根本みはる
豊田市議員もとむら伸子
前衆院議員すやま初美
党中央委員